第41回「命を守るための『色の地図』」

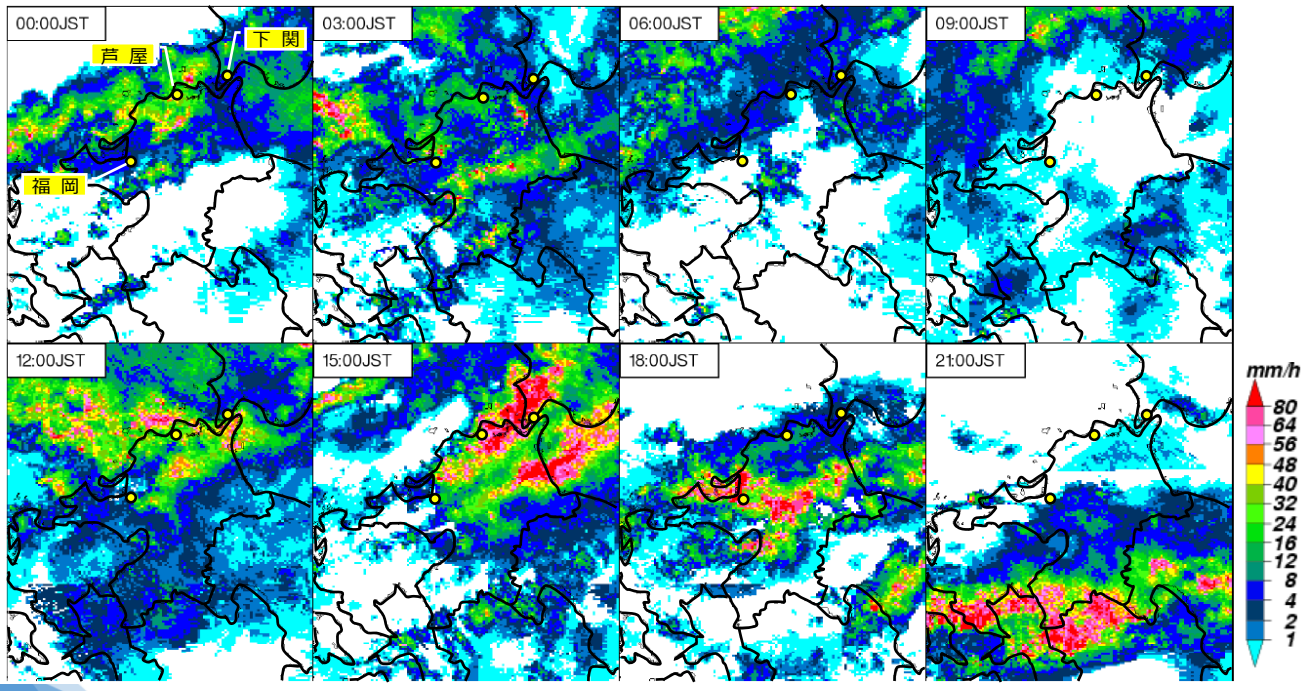
読者の皆様、「気象の社」をご覧いただきありがとうございます。今回は芦屋気象隊から、自然災害による被害の軽減や防災対策に使用される「ハザードマップ」と、災害の危険度をいち早く知らせてくれる「キキクル」を紹介したいと思います。

●毎年のように全国各地に甚大な被害をもたらす自然災害

日本は世界でも有数の自然災害大国であり、地震、台風、局地的な大雨、土砂災害及び津波等その種類は多種多様であり、高い頻度で発生しています。

今年の夏も、８月９日から１２日にかけて、対馬海峡から九州北部付近に前線が停滞し、前線に向かって中国大陸からの暖かく湿った空気と、太平洋高気圧縁辺からの暖かく湿った空気が合流して流れ込んだため、福岡県では大気の状態が非常に不安定となり、各地で大雨となりました。福岡県内に線状降水帯が発生し、芦屋基地では９日から１１日にかけて総降水量５１６ｍｍを観測、１０日の２４時間降水量は２８９ｍｍを記録しました。これは、１９８１年７月７日に観測した２３６ｍｍを上回り、４４年ぶりの記録更新となったほか、福岡県の各地で土砂災害が発生、福津市では高齢の男女二人が氾濫した河川

九州北部　気象レーダー画像（８月１０日　３時間毎）



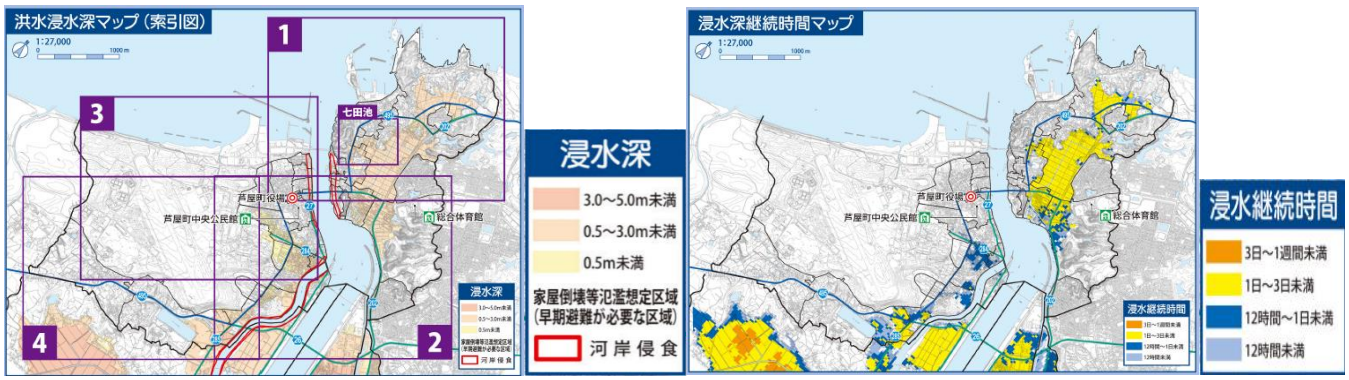
に流され行方不明となり、後日ご遺体となって発見されました。

●国土交通省や各自治体がＷＥＢ等で公開しているハザードマップ

上記のような大雨に伴う災害に加えて、地震や津波など、災害は突然やってくるため、発生してからでは避難が間に合わないことがあります。そこで重要となるのがハザードマップの事前確認です。あらかじめハザードマップを確認することで、自宅や学校、職場がどのような場所にあるか、危険区域にある場合は安全な避難場所と避難経路を把握することができ、災害発生時に迷わず行動することができます。また、家族で災害について話し合うきっかけになり、いざというときの混乱を防ぐ助けとなります。

ハザードマップには洪水、土砂災害、高潮及び地震・津波に関するものがあり、地図上で危険個所を色によって教えてくれます。

芦屋町ハザードマップ



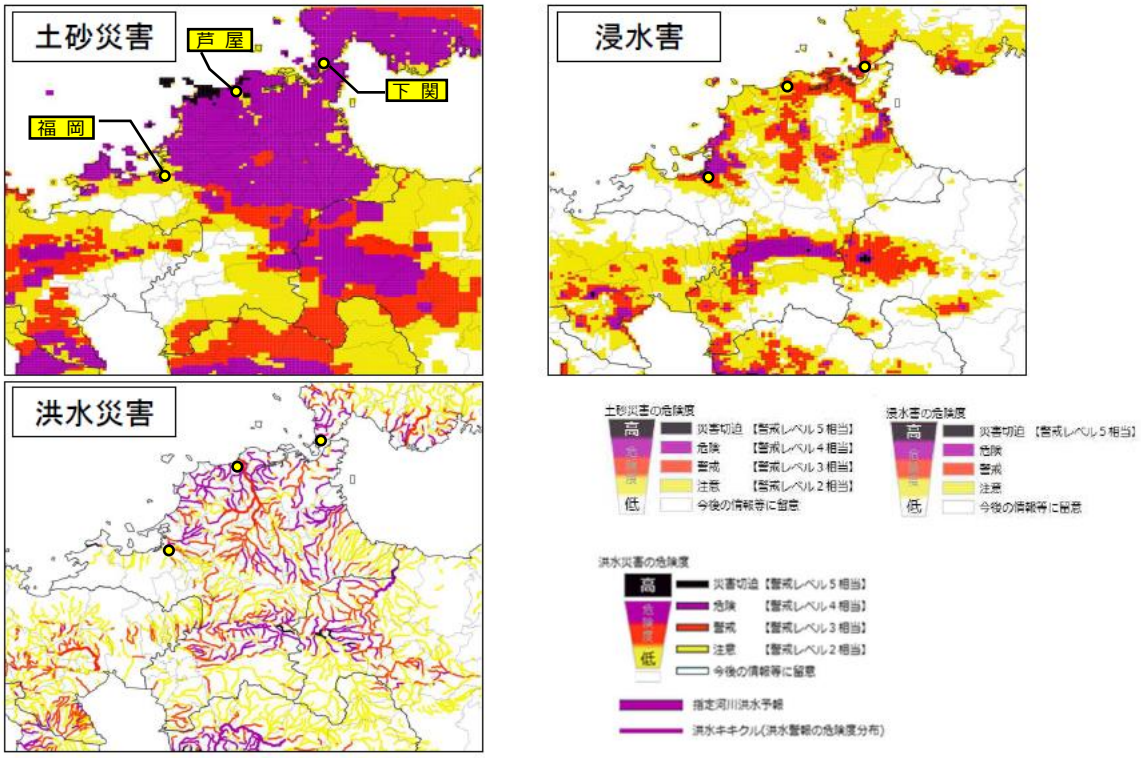
●見えない危険を色で確認、色別で分かるとるべき行動。

気象庁は、注意報や警報、特別警報といった情報を発表するとともに、土砂災害や洪水などの危険度を地図上に色分けして視覚的に表示するサービス「キキクル」を提供しており、災害の危険度を５つの警戒レベルで表しています。

危険度１（白）の段階で災害への心構えを高め、危険度２（黄）では避難行動を確認します。危険度３（赤）からは高齢者等は危険な場所からの避難を始め、危険度４（紫）の間に全員の避難を完了させることが示されています。特に危険度５を表す黒色は、何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高く、命の危険が間近に迫っているため、直ちに身の安全を確保することが重要です。避難にあたっては、あらかじめ指定された避難場所への移動にこだわらず、頑丈な建物の上層階に避難するなど、自分の判断で最善の安全確保行動をとる

ことが肝要です。

キキクルの最大危険度（8月10日）



●「ハザードマップ」や「キキクル」は命を守る行動の地図

災害はいつ、どこで起きるか分かりません。だからこそ、日ごろからハザードマップを確認し、危険な場所を把握することが大切です。また、日ごろからスマートフォンやパソコンでキキクルを確認し、見慣れておくことで、とるべき行動をより早い段階で判断できるのだと思います。

黒色の警告が示すのは、もはや災害の予測ではなく現実に起こっているかもしれません。情報を受け取るだけでなく、それを活かし、迷わず行動に移せるよう、ご家族や職場等で話し合っていただけると幸いです。

出典：気象庁ホームページ
気象庁福岡管区気象台ホームページ
芦屋町役場ホームページ